

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02507

研究課題名(和文) 社会教育専門職養成におけるジェンダー・セクシュアリティ問題学習プログラムの開発

研究課題名(英文) Gender/Sexuality and Professionalism of Adult Education and Community Learning

研究代表者

富永 貴公 (TOMINAGA, TAKAHIRO)

都留文科大学・教養学部・准教授

研究者番号：90572553

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究が設定した目的は、社会教育の場におけるセクシュアル・マイノリティ関連事業の成果と課題を整理し、それらに対するセクシュアル・マイノリティ当事者(支援)団体が求める配慮の実際を検討するとともに、そのような配慮にもとづく教育・学習を検討し、かつ、社会教育専門職養成におけるジェンダー・セクシュアリティ問題学習プログラムを考察することであった。研究期間中におけるコロナウィルス感染拡大を受けた制限のために、は理論的な基盤を整理するにとどまったが、およびの資料収集、の先行研究の整理・検討にもとづいて、学習者の尊厳を守る学習支援と、そのための社会教育専門職養成の視点を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日、セクシュアル・マイノリティの権利保障に関わって、多様な対策が講じられている。このような状況のなか、社会教育の場では、セクシュアル・マイノリティに関わる教育・学習事業が展開されているが、とりわけ、現行のジェンダー問題学習との関連において、それらの理論的・実践的な基盤は必ずしも明らかではない。このような社会的、かつ学術的な状況に対して、本研究は、セクシュアル・マイノリティへの配慮を保證する教育・学習の理論的基盤を提示し、それらにもとづく社会教育専門職養成におけるジェンダー・セクシュアリティ問題学習の理論的基盤を検討したことに意義を有する。

研究成果の概要(英文)：This research project aims at creating the theoretical basic for learning by professionals of adult education and community learning through studying Gender Equality Promotion Centers' learning projects about sexual orientations and gender identities, reactions to those by sexual minorities and their supporters and researching the learning practices of such professionals in the field of adult education and community learning. Although research of this project had been restricted because of COVID-19 pandemic, the every possible research means had been taken, and the theoretical perspectives of protecting learners' dignity was found as the professionalism of adult education and community learning.

研究分野：社会教育・生涯学習

キーワード：社会教育 生涯学習 ジェンダー セクシュアリティ 専門職養成

1. 研究開始当初の背景

今日、セクシュアル・マイノリティの権利保障に関わって、国や自治体による法制度の検討や行政による啓発活動など、多様な対策が講じられている。しかしながら、社会教育の場におけるセクシュアル・マイノリティへの配慮は緊要でありながらも必ずしも十分に検討されてきたとは言えない。東京都府中青年の家（現在は閉鎖）という社会教育施設における同性愛者差別事件の判決（1997年）に際し、「少数者である同性愛者をも視野に入れた、肌理の細かな配慮が必要であり」、「無関心であったり知識がないということは公権力の行使に当たる者として許されない」とされたことは、社会教育の実践と理論にとって、セクシュアル・マイノリティの十全な学習権保障を対象化する契機となったはずである。

他方、1975年の国際女性年から1999年の男女共同参画社会基本法の制定に至る経緯のなかで、社会教育施設としての公民館などに加えて、地方自治体は男女共同参画関連施設を設置し、それらにおける女性問題・ジェンダー問題学習の内実の検討が行われてきた。今日、これら男女共同参画関連施設のなかには、その事業としてセクシュアル・マイノリティを取り上げ、それらに関わる情報や学習機会の提供を行っている施設がある。このようなセクシュアル・マイノリティをめぐる事業の展開は、当事者たちの顕現と社会的な状況の変化のなかで、男女共同参画のあり方そのものを問い直すものである。そもそも、男女共同参画行政は、男女共同参画社会基本を根拠とし、男女の、とりわけ、女性の人権の尊重を求める事業を旨とし、「性別」や「性的指向」そのものを問い直しは、従来の男女共同参画行政の枠内には存在しなかった。

社会教育および男女共同参画の場におけるジェンダー問題学習との関連において、セクシュアル・マイノリティの権利保障をどのように関連づけるのか、それらの場における学習を支える社会教育専門職の養成においてこのことはどのように引き受けられるのかは、実践的、理論的に十分に検討されていない。

2. 研究の目的

本研究が設定した目的は、以下の4点であった。

- 社会教育の場におけるセクシュアル・マイノリティ関連事業の成果と課題を整理、検討すること
- それらに対するセクシュアル・マイノリティ当事者（支援）団体が求める配慮の実際を検討すること
- これらのことを踏まえながら、セクシュアル・マイノリティへの配慮を保証する教育・学習の理論的、かつ、実践的な基盤を提示すること、
- それらにもとづく社会教育専門職養成におけるジェンダー・セクシュアリティ問題学習プログラムの理論的・実践的な基盤を検討すること

3. 研究の方法

上記の目的のために3つの課題、すなわち、第一に、男女共同参画行政によるセクシュアル・マイノリティ関連事業の意義と課題を検討すること、第二に、セクシュアル・マイノリティ当事者（団体）が学習の場に求める配慮の実際を整理すること、そして第三に、社会教育専門職員によるジェンダー・セクシュアリティ問題学習プログラムのための理論的・実践的な検討を設定した。

これらの課題に応答するため、継続的にセクシュアル・マイノリティ関連事業を行っている施設における資料収集、男女共同参画行政と連携しながら活動するセクシュアル・マイノリティの当事者（支援）団体へのインタビュー調査を行うとともに、関連する国内外で収集した文献にもとづく検討を行った。

4. 研究成果

上記、研究の目的で述べた4点に関わって、研究期間中に生じたコロナウィルス感染症拡大を受けた研究方法の変更や、フィールドワークおよびインタビュー調査の制限により、つまりは社会教育専門職養成におけるジェンダー・セクシュアリティ問題学習プログラムの理論的・実践的な基盤の検討に関わっては理論的な基盤を整理するにとどまった。

しかしながら、研究目的の、つまりは、社会教育の場におけるセクシュアル・マイノリティ関連事業の成果と課題の整理、検討、および、社会教育の場に対してセクシュアル・マイノリティ当事者（支援）団体が求める配慮の実際を検討、さらに、セクシュアル・マイノリティへ

の配慮を保障する教育・学習の理論的、かつ、実践的な基盤に関わる先行研究の検討にもとづいて、学習者の尊厳を守る学習支援と、そのための社会教育専門職養成の視点を示すことができた。このことは、先に述べた研究開始当初の背景、つまりは、セクシュアル・マイノリティの権利保障に関わってさまざまに展開される状況や、それらを捉える学術的な状況に対して、セクシュアル・マイノリティの問題として閉じられず、当事者性の有無を問わず、性と生に関わる尊厳を守り、守られるための教育・学習と、それを支える専門職養成の視点が求められることの確認を求めるものである。

この間の感染症拡大は、人と人のあいだの距離を問うことによって、社会教育の場における学習とその支援の関係に対しても大きな問い直しを求めた。このことを踏まえた検討は、未だ十分でない。本研究課題にかけられた研究方法上の制限から、さらなる課題が見出されたこともまた、本研究の成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 富永 貴公・坂本 良哉	4. 巻 27
2. 論文標題 同性婚 / パートナーシップ制度をめぐる男女共同参画関連事業の意義と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都留文科大学大学院紀要 = 都留文科大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34356/00000874	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川 修平	4. 巻 24
2. 論文標題 ジェンダーセッション(第87回) : 性的マイノリティ「支援」に留まらないクィアペダゴジーの在り方 : 性的マイノリティに関わる日本の教育政策と教育実践との乖離に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学ジェンダーフォーラム年報 : Gender-Forum	6. 最初と最後の頁 65~75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00022713	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川 修平	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 多様性」の保障のためのクィアペダゴジーの視点 性の多様性に関する教育制度に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『思春期学』	6. 最初と最後の頁 116, 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永貴公	4. 巻 141
2. 論文標題 パートナーシップ制度をめぐる「もう一つの声」にいかに応えるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会福祉研究』	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川修平	4. 巻 52
2. 論文標題 ジェンダー・セクシュアリティに着目した「総合的な学習」の指導法 性教育を担った教師の課題意識と授業実践案に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『武蔵野美術大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川修平	4. 巻 101
2. 論文標題 声明 が出されるとき、わたしたちは：“人間と性”教育研究協議会40周年史年表にみる「性と人権」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『季刊セクシュアリティ』	6. 最初と最後の頁 92-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川修平	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 沈黙を破るための 性 の学び	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『子ども白書2021』（日本子どもを守る会編、かもがわ出版）	6. 最初と最後の頁 196-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川修平	4. 巻 103
2. 論文標題 性の多様性 LGBTとSOGIE	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『季刊セクシュアリティ』	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川修平	4. 巻 103
2. 論文標題 「ガイダンス」における「知識・態度・スキル」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『季刊セクシュアリティ』	6. 最初と最後の頁 130-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mieko Ikegaya, Takahiro Tominaga	4. 巻 5
2. 論文標題 Women's Empowerment in Communities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海大学現代教養センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永貴公、池谷美衣子	4. 巻 93
2. 論文標題 社会教育をめぐる二元性再考(1): 『生涯学習・社会教育行政必携』の検討から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 137-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富永貴公	4. 巻 55
2. 論文標題 「ジェンダーと社会教育」のこれまでとこれから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会教育学研究(日本社会教育学会)	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富永貴公	4. 巻 47(7)
2. 論文標題 生=痛みを分有するためのわたしたちの生涯学習社会に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 190-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 堀川 修平・正木 僚
2. 発表標題 「地方」を生きる性的マイノリティの子ども・若者支援の展開
3. 学会等名 日本社会教育学会第69回研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 堀川 修平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 263
3. 書名 気づく 立ちあがる 育てる 日本の性教育史におけるクィアペダゴジー	

1. 著者名 富永貴公	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 300
3. 書名 分かちあう経験・守りあう尊厳	

1. 著者名 日本社会教育学会編（富永貴公、池谷美衣子、丸山啓史、笹井宏益、橋田慈子、阿比留久美、井口啓太郎・鈴木麻里、堀本麻由子、河野和枝、野依智子、吉岡亜希子、飯島絵理、生島美和、鈴木敏正著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 208
3. 書名 ワークライフバランス時代における社会教育	

1. 著者名 Mariko Ogawa, Takahiro Tominaga("Women in Leadership in Japan ' s Education Sector")	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 360
3. 書名 Japanese Women in Leadership(Yoshie Tomozumi Nakamura, Mayuko Horimoto, Gary N.McLean[Eds.]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI) (80912815)	埼玉大学・教育学部・その他 (12401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------